

高山彦九郎像と昭和の戦争

— 鶏冠井石塔寺住職・明渡日正の活動を通して —

令和6年
(2024) **7/13** **土** ~ **8/25** **日**

【開館時間】 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

【休館日】 毎週月曜日（ただし7/15(海の日)、8/12(振休)は開館）、
7/16(火)、8/1(木)、8/13(火) *** 入館無料 ***



正日渡明

向日市文化資料館では、毎年夏に平和を考える機会にと、地域に残された戦争に関する資料を展示してきました。今年はいままでと少し趣きが変わりますが、向日市鶏冠井町石塔寺所蔵の高山彦九郎像に関する資料を展示します。

現在、京阪三条駅前の待ち合わせ場所として知られる高山彦九郎の銅像は、石塔寺住職の明渡日正上人が発起人となっ

て全国から募金を集め、昭和3年(1928)、三条大橋東詰に造立されたのが最初です。明渡日正は、戦争に向かう時代にあって、さまざまな事業を創出し、国民精神の形成に努めようとした人でした。

太平洋戦争が始まり物資不足で金属類回収令が強化されると、昭和19年に彦九郎の銅像も“出陣”、つまり供出されます。空いた台座には、翌年に銅像趾を記念する石碑を建立しますが、その後まもなく敗戦の日を迎えます。

この展示では、向日町仏教団を組織し戦没兵士の慰霊にも積極的に取り組んだ明渡日正の活動を、昭和36年には再建されることになる高山彦九郎像の、戦前・戦中・戦後の変遷とともにたどります。

【写真】

上左 高山彦九郎銅像建設記念写真（昭和3年）

上中 銅像建設発起人・明渡日正肖像
（昭和4年発行『高山先生銅像記念帳』より）

右 銅像趾記念建碑除幕式風景（昭和20年6月）

いずれも石塔寺所蔵資料



向日市文化資料館

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
tel 075-931-1182 / fax 075-931-1121
<https://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/>

